Vol.85 「外国人から見た日本人」観と現在の日本を考える （平成18年4月10日）

過日、八日市場市に講演に招かれた折、友人から「外国人から見た日本人」というコピーを渡されました。読んで見て、改めて今日の日本を育て築き上げてこられた日本の先人達に敬意を表すると共に、これからの世界で経済に生きる日本人のあり方を改めて考えさせられました。

いただいたコピーの要旨は次の通りです。

（イ）３世紀　魏志倭人伝

倭人は窃盗しない　訴訟もまた少ない

（ロ）６世紀　隋書倭国伝

とても物静かで争い事が少なく、盗みも少ない。性質は素直で上品である

（ハ）１６世紀　フランシスコザビエル

「名誉心が強く、名誉がすべてであり武士も平民も貧乏を恥としない。多くの人が読み書きができ知的水準が高く、礼儀を重んじて悪を許さない。」

（二）１６世紀　ブアリニアーノ　信長に接見を許されたイエスズ派宣教師

「日本人は欧州人の様に粗暴ではなく、忍耐強く清潔で理解力に優れ、仕事に熟達していて礼儀は極めて正しい。」

（ホ）１９世紀　イザベラ・バード

イギリス人の彼女は世界旅行家で「世界中で日本は最も安全で、無作法な目にあわなく、全く安心して旅の出来る国は他に無かった」

（ヘ）１９世紀　ペリー

「日本人は丁寧で礼儀正しく、武士は知識が高く名誉心強く、国を侵される不名誉を極端に嫌っている」

（ト）１９世紀　ハリス

「日本人の国民性は極めて器用で勤勉であるので、やがて偉大な強力な国家になるであろう」

（チ）１９世紀　幕末日本を訪れた外国人の多くは「日本の子供は世界中で一番可愛い、何よりも目が輝いている。その上、大人達が子供達を大切に可愛がっている。この国の子らは幸せである」

（リ）１９世紀　エドワード・モース

モースは大森貝塚を発見した人です。彼は「日本人はすばらしい道徳を身につけていて、店を開け放しても、机の上に小銭を置いたままでも召使達は手をふれない国だ」

（ヌ）２０世紀　アインシュタイン

「日本人はこれから先の世界のリーダーに必ずなる日が来る」

とありました。

かつての日本は鎖国、封建社会の中にあって諸外国からなぜこの様な高い評価を受けたかといえば、江戸末期には武士の子弟は藩校や私塾で学び、他の子供達は僧侶、神官、浪人達等が運営する塾、寺子屋で学びました。その数は全国に５万ヶ所（現在、全国で小中高校合わせて４万校です）あったと言われ、国を挙げて人を育てることに取組んできました。明治以降も、こうした教育の流れが続き国際的な信用、評価をかち得ていたのだと思います。

現在の日本経済の在り方はどうでしょうか？法に触れなければ何をしても良い。自分さえ良ければ他はどうでも良いという風潮が蔓延しています。これでは日本の評価は上がるどころか下がる一方です。ベストセラーとなっている「国家の品格」の著者藤原正彦氏の考えに賛同する人々が多いという事も頷けます。